

1 研究主題

授業研究や教材研究を通して、授業力の向上を図る。

2 研究の概要

実習・教材研修・授業研修の計3回の活動を行った。活動を通して教材・指導法について情報交換したり授業を参観したりして、研修を深めた。

3 研究の実際

(1) 教材作成研修会（6月）

小学校4年生「もののあたたまり方」の場面で使う実験器具の作成について研修した。

今回の研修では、教科書で示されている方法よりも見やすく観察するために、煙をためる教材を作成した(図1)。児童が実験をするときの器具を考えることは、正しい現象をみせることにつながり、正しい理解につながると感じた。今回の研修を活かし、「もののあたたまり方」の学習だけでなく、ほかの単元においても教材を考える時間を作っていきたい。

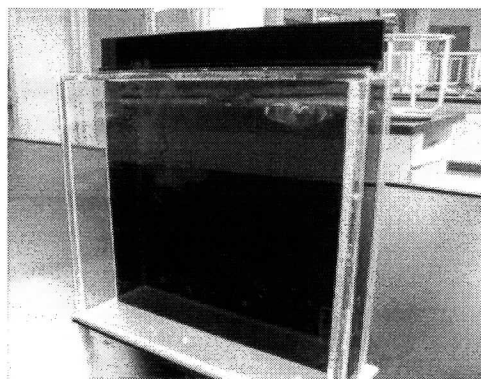


図1 気体の対流実験器

(2) 教材研修会（9月）

ア 各部員の実践レポートの紹介

- ・「水溶液の性質」の実践発表・理科授業の進め方や子どもが関心を高める宇宙科学の紹介・学習したことを定着させる場面の取り組みの実践紹介・めあてを意識化させる板書の工夫例の紹介・モーターの回る速さ、葉のでんぶん実験に関する提案・コンセプトマップを活用した理科授業の評価に関する事例研究
- ・「風のはたらき」「月や星の動き」の実践発表。

イ 10月の授業研究の指導案検討

- ・『第4学年「水の3つのすがた」』について話し合いを行った。本時で、目指す子どもの姿について確認し、手立ての有効性について話し合った。

(3) 授業研究（10月）

ア 単元名 「水の3つのすがた」

イ 授業者 高野 和明（五泉南小学校 教諭）

ウ 授業の実際

水が沸騰した時に出てくる泡の正体は何か。

子どもたちは、水が温められたことによって曇った管、水につけられた管の先の様子、途中で冷やされている管に水がたまっている様子を観察し、泡の正体が空気ではなく、水蒸気であることを捉えていった。

実験方法の有効性が確認できたほか、記録の仕方、視点のたせ方について確認することができた。

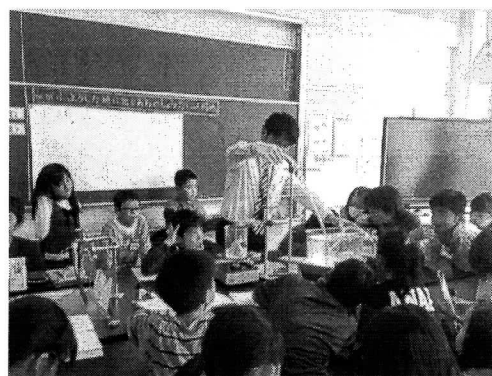


図2 泡の正体を確認する実験

4 成果と課題

教材作成研修会・教材研修会・授業研究を通して、理科学習における教材開発・教材研究の大切さを感じることができた。また理科指導のポイント等を再確認することができた。今後も効果的な理科指導について情報交換し、授業力の向上を目指していきたい。